

平成21年度第1回中原区区民会議

平成21年度第1回中原区区民会議が開催されました。

会議では、課題調査部会報告、運営部会報告、これまでの審議課題に対する取り組みによる各報告の後、都度委員の方々による意見交換が行われました。

会議の内容は次のとおりです。

日時・会場など

平成21年7月10日（金）午後3時から午後5時19分まで

中原区役所5階会議室

会議の傍聴人 11名（一般8人、市職員3人）

会議次第

- ・開会
- ・会議録確認委員の選任
- ・議題
 - （1）課題調査部会報告（課題解決に向けた取組みの提案）及び意見交換
 - （2）運営部会報告～平成21年度第2回区民会議の検討テーマについて
 - （3）これまでの審議課題に対する取り組み
 - （4）その他
- ・閉会

（1）課題調査部会報告（課題解決に向けた取組みの提案）及び意見交換

<竹井副委員長、事務局から4月24日の課題調査部会の報告>

- ・コミュニティの場の拠点として、公園や多摩川、グラウンドなど、ハード面の整備なども区民会議として提言してはどうか。
- ・マンションの管理組合だけでは、町会的な働きは含まれていないので、災害時に問題が起こるのではないか。
- ・学校、地域、行政、社会福祉協議会、民生委員児童委員等々のつながりを持った有効的なコミュニティの連携が必要。
- ・住民が互いに助け合える関係づくりを個人レベルから積み上げて、コミュニティづくりをしていく。PTAのあいさつ運動などはその一例と思う。
- ・近所の支え合いをもう1度考え直し、自分1人で生活できるものではないとの共通認識を持つ必要がある。
- ・マンション住民の中には、リタイアされて時間に余裕のある方、いろいろなスキ

ル、ノウハウを持っている方など多様な住民がいるはずなので、そういう方に地域活動に参加していただきたい。いずれにせよ、出会いの場をつくることが大切である。

- ・みんなが集まれる場所にはどういうものがあるか、アンケートをとってみたい。
- ・モラル・マナーアップのポスターを町内会連絡協議会や商店街などを通じていろいろな場所に張り、あいさつの実践によるコミュニティづくりを広げていく。町内会だけではなく、各区民会議委員の出身母体、関係母体の中でも配布していきたい。
- ・新たな住民と既存の住民の交流、区の魅力発信、区民の町への愛着を深めることを目的としたイベントを3月ぐらいに開催予定。
- ・商店街の店舗を使った料理教室等々で、地域の買い物客との交流を深めていく。
- ・7月に市民活動の集いを中原市民会館で行う。そういう場を通じて、各団体間の交流、団体と住民、市民、区民との交流、コミュニティの形成を推進する。
- ・小杉駅周辺再開発地区等におけるコミュニティづくりの充実として、これから住民との新しい意見交換、情報交換の場所をつくっていく必要がある。かながわカウンセリング研究会、NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントなどの団体との連携、また、関係局やNPOとの情報交換、連絡調整を図ってワークショップ、啓発活動を行い、地域コミュニティ形成を積極的に推進する。
- ・行政による取り組みとして、町内会・自治会活動の活性化、大型マンション住民の組織化に向けた支援がある。町内会・自治会などの住民組織への加入が伸び悩んでいる問題点を精査し、自治会活動、住民組織を再認識していただき、加入、参加の促進を図っていく。また、大型マンションについては、区内マンションの管理組合の実態を把握、行政との連絡、連携を強め、住民組織化に向けた取り組みを進める。新たな住民と既存の住民との交流を働きかけ、相互理解を深める取り組みを進める。
- ・ボランティア参加促進策として、エコマネー、地域通貨等を用い、商店街と連携して検討してはどうか。
- ・地域課題連絡協議会という大枠をつくり、課題が起こったときに、区民会議の1つの部会として比較的スムーズに検討が行えるようにする。
- ・課題についてさまざまな取り組みが行われているが、連携が不十分ではないか。組織を横断的に連携させ、既存の取り組みを1カ所に集めて課題を解決するという共通の目標に取り組んではどうか。
- ・地域の人々、区役所、組織、団体等々が助け合い、協力し合って参加し、より住みよいまちづくりをしていく。課題をはっきりさせ、そこに人が集まり話し合うことで人と人とのつながりを再生、活性化するねらいもある。
- ・区民会議でどういう課題が大切かを審議し、方向性を決め、それを受けてテーマに関係しているいろいろな組織が集まって取り組むべきではないか。
- ・年に1回程度は区民会議でテーマの進捗管理を行って、チェックしていく。

- ・自転車と共生するまちづくり委員会や地球にいいことプロジェクトを1つの事例として、それらの協議会が実際に機能するかどうかを含めてやってみたい。

<委員からの主な意見・提案>

- ・子育て世代なので、子どもたちのよりよい環境づくりを中心としてコミュニティの輪を広げていただき、場所を提供していただけたらと考える。
- ・商店街として地域の人たちに楽しんでいただく企画をやっているが、最近はイベントを打つ場所がなかったり、近隣のマンション住民に警察を呼ばれたりして困っている。
- ・6月に日枝神社御鎮座1200年祭が盛大に開催され、地域のコミュニティがまだまだしっかりと機能していると実感し、感動した。中原区は4分の3が集合住宅だが、町内会の入会状況などきちんとした数字が出ているのか。その辺も協力して調査していくことが必要ではないか。
- ・コミュニティという言葉に惑わされ過ぎて具体性がない。あいさつは地域コミュニティの第一歩だと言うが、何を目的にするかが重要だと思う。
- ・コミュニティのために何か1つベースになるものを町会で話し合う。テーマが大き過ぎて漠然としているのが一番いけない。具体的にどうしたらいいかを話し合い、確認し合うだけでもコミュニティになっていくのではないか。
- ・社会福祉協議会の母体はほとんどが町内会なので、町会の活動が主である。学校との連携交流も行い、あいさつ運動、防犯パトロールなどを行っている。これを広げていけばすばらしいコミュニケーションができるのではないか。
- ・日本には町内会というすばらしい組織があるが、実際に住んでいる方がなぜ入らないのかといえば、生活が非常に便利になっているし、行政サービスもよくなり、人とかわからなくても生活ができてしまうためである。
- ・防災などのときに自分はどうするのか、全く考えていないのではないか。地域とのコミュニケーションがなければいざというときに困ることを説明し、コミュニケーションする場をつくることが必要ではないか。
- ・生活が便利になったとは言いが、実際に子育て、病気などで悩んでいる人、新しい住民で友達がなくてどうしていいかわからないという人も知っている。海外の教会、フレンドシップ等、そういう気楽に行ける場所が必要ではないか。
- ・コミュニティが乱立し、また行政主導の組織も多くある。重複しているものもかなりあると思うので、住民、区民が参加しやすく、共感意識が持てるようなコミュニティづくりが必要。それには新しい組織の創立も必要だと思う。
- ・子育てサロンはまさにコミュニティの場であり、悩みや不安を持つ人たちが初めて会い、友達をつくるきっかけの場である。子どもはみんなの力をかりて育てて

いくということを意識すれば、自然にコミュニティの中に入れる。サロンに来られない人は、さまざまな電子媒体による情報交換も必要ではないか。

- ・団体間をコーディネートする、地域コミュニティのコーディネーターが必要ではないか。
- ・レジデンスの方、NPOの人たちで実行委員会をつくり、昨年8月に新駅前広場で夏祭りを開催。1200名位の方の参加があり盛大に行われたが、今年は新駅前広場が工事で使えない。NPO法人で出している月刊エリアマネジメントには、地域の盆踊りや夏祭り、花火大会などの情報を載せている。
- ・マンション住民は、30代、40代がその80%を占めているので、パパママパーク・こすぎは非常にニーズが高いサロンとなっている。その他、こすぎこども探検隊、自転車放置防止活動などいろいろな事業を通して地域コミュニティづくりをしていきたい。
- ・中原工場協会は昭和23年に発足し、約250社が在籍している。創立70周年目指し、会館を建設するため会員企業に寄附を募っている。会員数は現状維持であるが、「工場協会」イコールものづくり的なイメージを持たれてしまうので、名称の変更も図り、各種法人企業の会員参加を募るための組織拡充の最中である。
- ・中原子ども会は、入会率が減少している。原因の1つとして、共働きの保護者が委員になることを嫌がる傾向が見てとれる。総じてリーダーが少なく、1年で終わりという単会もあり苦慮している。
- ・人を集めるには、上に立つ者が話術にたけていなければならない。そうでなければ、すぐ立ち消えになってしまう。
- ・最近の中高生の親は共働きのため、1人でひきこもる子が多い。1人での男子は妄想がひどいので、そのようなときこそ話し相手になるべきではないか。
- ・町会の人間より、役所の対応のほうがよい現状は、大変嘆かわしい。
- ・「コミュニティ」とは昔で言う「井戸端会議」のことであって、もっと親しみのある言葉があるのではないか。
- ・マンションに選挙公報を持っていても、人間関係が希薄なため受け取ってもらえない。ちまたでのきめ細かな活動により、人間関係のきずなは強くなる。
- ・小杉駅周辺エリアマネジメントの夏祭りがなくなったのは大変残念である。最悪、多摩川河川敷を使って開催すべき。再度検討願いたい。
- ・資料5「地域課題連絡協議会（案）」には竹井副委員長の名前が入っているが、本当に市民が提案したものなのか。行政が書いた文章なのではないか。もっと市民本位の名前にすべき。

→行政がわかりやすい表現とした。実際的にはなかはら地球にいいことプロジェクトという名前でスタートさせ、ご意見も踏まえ、いろいろと膨らませていき

い。最終的には、区内各分野の方で課題が話し合える場としていきたい。

- ・コミュニティについて「社協なりで非常にうまくやっている」「いろいろなコミュニティがあり過ぎて困る」との指摘は、各団体なり組織内ではうまく動いているものでも、全体としてはばらばらなのではないかとの指摘と思う。

（２）運営部会報告～平成21年度第２回区民会議の検討テーマについて

- ・第１回区民会議で話し合う検討テーマについて審議を行い、竹井副委員長からの課題調査部会の報告後、区民会議の日程調整を行った。
- ・第２回区民会議で話し合う検討テーマについて審議を行い、当初案では子育て・教育、緑の保全・ごみの抑制、文化・観光の振興という意見が多かったが、テーマとして特化すると概念的になってしまうので、「まちの魅力」というテーマを選定すれば、コミュニティづくりの課題と連携できるのではないかとの意見があった。
- ・上記のような意見交換の結果、第２回区民会議のテーマは「まちの魅力を見つける」とした。ただ、浸水問題はハード面の課題であり、区民会議で解決を図るための方針・方策を見出すことが難しいため、本会での検討テーマとしては見送り、審議内容等を担当部局へ報告し、対応願うことを確認した。

＜委員からの主な意見・提案＞

- ・川崎市全区は「まちの魅力を見つける」点において、中原区を目標に競い合っている。一例として、平和館などをもっと地元住民にＰＲすべき。
- ・法人として育児休業規則を改編しても、対応する行政サービスが周知されていない。区として何か対応しているのか。
→子育て冊子やホームページ等で情報提供している。
- ・中原区子ども会では、会に加入していることを認識してもらうため、年間500円徴収している。また、丸子地区は、９地区あるが、経済不況もあり、仕事以外の面倒を見られない保護者の事情等もあって、運営に苦慮している地区も少なくない。
- ・中原区全域では、地域住民による子育て支援活動を五、六年継続している。それ自体が「まちの魅力」なので、もっと活動をアピールするため協力願いたい。
- ・日枝神社の祭礼で張り切っているのは父親ばかり。子どもと一緒に参加するよう働きかけたところ、子ども会を中心に子どもみこしを復活せようとする動きが見え始めている。
- ・イベントを企画しても、習い事の発表会等とバッティングし、参加が少ないのが現状。ＰＴＡ会長、町会長を通じてその旨を知らせても、年間行事としての決定

事項のため先送りされ、悪循環に陥っている。

(3) これまでの審議課題に対する取り組み

<竹井副委員長「なかはら地球にいいことプロジェクト」について報告>

- ・ 本年1月から月1ペースで打合会を行っている。具体的な活動を通じてネットワークをつくりながら広げていこうと考えた。また現在、市環境局を中心にCCかわさきタウンミーティングを開催し地球温暖化対策関連条例制定に向けて動いている。審議会では計画改定が進んでいるので、その方向性とあわせながら、普及啓発・環境学習・環境教育の推進と実践活動の推進を柱に取り組んでいきたい。
- ・ なお、7月30日(木)午後6時より正式な第1回打合会を開催する。

<事務局 ペットボトルキャップ回収について報告>

- ・ 平成19年12月から実施しているペットボトルキャップの回収実績は、約7トン、月平均約400キロであった。ただ、回収実績が上がるにつれ、回収業者の負担が大きくなったため、8月1日からは回収業者に直接持ち込んでいただくよう周知ポスターを掲出している。なお、区役所内から排出されるペットボトルキャップは、引き続き区役所から回収業者に持ち込む予定である。

<芳賀委員「地域で取り組む放置自転車問題」の活動報告>

- ・ 4月5日の丸子・小杉桜まつりで「買い物における自転車の利用」についてアンケートを実施し、247人からの回答を得た。「駅前に、自転車で来られるのはどのようなときですか？」との設問では「公共機関よりも早いから」との回答が最も多く、次いで「荷物が重いから」「交通費が、かからないから」の3点が大半を占めていた。自由意見では「駐輪場についての問題提起」が圧倒的多数を占めていた。駐輪場の設置には駅前一等地が必要であるとか、区民は自転車の利便性しか考えておらず、自分さえ便利な場所に置ければよいという、わがままな意見が多いように感じた。
- ・ 放置防止啓発活動「呼びかけ活動」を月2回行っている。また、独自に放置防止啓発ポスターを制作し、小杉地区の金融機関、病院、スーパー、公共機関の協力を得、各所で一番目立つ場所に張らせていただいた。
- ・ とどろき水辺の楽校の要請を受け、カヌー体験教室で出張講座を2度開催し、約250名の参加をいただいた。
- ・ T S U T A Y Aの後背地にある放置自転車約320台の撤去作業を行政に要請し、6月1日に実施したところ、非常に環境がよくなった。
- ・ 旧中原市民館に約360台収容の臨時駐輪場を設置したにもかかわらず、200台程度

しか収容されていない。調査の結果、イトーヨーカ堂、中小企業婦人会館の各駐輪場で50台程度増えているが、最終的に約100台が路上に拡散していると思われる。

- ・川連委員を中心に、丸子地区と連携して警告タグを制作している。新丸子駅周辺では相当の効果を上げているが、小杉地区では、タグを張りつける予定日が読まれているらしく、活動していない日は結構放置されている。
- ・「放置自転車のないまち通信」第2号を編集中である。

＜事務局「区民会議委員による『放置自転車問題』啓発チラシ配布状況について」報告

- ・「区民会議委員による『放置自転車問題』啓発チラシ」として、7月10日（金）現在、ポスターを39枚、チラシを903枚配布いただいた。

＜委員からの主な意見・提案＞

- ・個人商店には駐輪スペースがない。商店街にはどのように協力願っているのか。
→通行の邪魔にならない範囲で店先に駐輪するよう勧めている。法律以上のことはできないが、市条例により容認できる範囲を制定してもらえないか、検討課題としていきたい。ただ、商店街が積極的に違反駐輪を取り締まった結果、客足が途絶えた事例もあるので、余り厳しく取り締まらないでほしいというのが商店街の本音と考える。
中央部に大型スーパーができ、地域商店街が縮小傾向にあるため、自転車での移動が必然となることにかんがみ、地域交通（コミュニティバス）も全般的な大きな問題としてとらえる必要があるかもしれない。また、イトーヨーカ堂で2時間、東急で1時間半、フーディウムで3時間までの無料駐輪を提供いただいている。
- ・社協のボランティア委員会も人材が不足している。今後、地区民協はそれぞれに事務をこなすような時代に進むと思われるので、この点もテーマとして将来的に考えるべき。
→PTAでも協力しているが、限度があるという現状を理解願いたい。